

1 情勢報告

ミョウガ部会の現地検討会を行いました（4月13日）

熱心に説明に聞き入る
部会員

4月13日、ＪＡ津野山ミョウガ部会で、今後の温度管理等について、平成21年度まとめのある産地づくり事業による第1回の現地検討会を行いました。午前中は土耕栽培の篤農家圃場で、午後は養液栽培の篤農家圃場でそれぞれ現地検討会を行いました。まず、参加者全員でＪＡから現在までの篤農家の栽培経過について説明を受け、見学をしました。その後、振興センターが試験報告や、前年の調査結果の説明を行いました。そして、篤農技術を参考にしながら、各自が立てた目標を達成すべく栽培技術の向上に取り組んでいくことを確認しました。振興センターは今後も現地検討会を通じて篤農技術の紹介と普及をしていきます。

米ナス、小ナスの栽培が始まりました。

農薬の履歴を確認する
生産者

ＪＡ津野山管内では、3月末から米ナス、小ナスの苗の配布が始まりました。当ＪＡのナス部会はＩＳＯ14001に取り組んでいます。まず、ＪＡが事前に育苗業者から入手した使用農薬を一覧表にして、苗と同時に手渡し、農薬の使用上の注意を説明しました。振興センターはＪＡと一緒に苗の状態を確認し、何らかの対処が必要と診断した苗については農薬履歴を元に、生産者に必要な農薬や対処方法の説明を行いました。

今回配った農薬の履歴表は、栽培期間を通じて書き込みを加えていき、農薬の適正使用に活用していきます。

振興センターでは、今後、現地検討会や各種講習会を通じて栽培技術の向上と選ばれる産地づくりに向けて農家への支援を行っていきます。

こうち型集落営農の組織のかたちが決まりました。



ショウガ定植作業

津野町保井川集落・下野集落・芳生野奈路集落は、こうち型集落営農の仕組みづくりに取り組んできましたが、4月16日、規約案等が整いました。

今後は、集落別に参加説明会を開き、5月24日組織立ち上げを目指します。また、組織立ち上げに先行して、ショウガ栽培を始め、4月13日には11名が参加して定植作業を実施しました。参加した女性は、「普段の一人での作業より、楽しかった」と話していました。

ニラの生産安定に向けてキルパーの灌水処理技術に取り組めます（4月17日）

キルパー立毛中灌水処理ほ場での現地検討会
（須崎市中氏）

ＪＡ四万十大野見支部ニラ部会では、葉腐病やネダニ等の土壌病害虫が問題になっています。そこで、防除対策としてキルパー灌水処理技術について紹介したところ、須崎市で実証しているハウスの調査をしたいという要望があり、先進事例の調査に同行し、アドバイスをしました。

参加農家からは、処理時の危険性が少ない 効果が高い処理技術だとの意見があり、2名の方が導入を検討したい意向です。

その後部会で話し合いをした結果、部会の取り組みとして、5月に営農アドバイザーのハウスで実演会を開催し、本防除技術の普及を進めることになりました。振興センターは、部会員と共に今後の現地検討会を通じて防除効果の確認を行っていきます。

津野山のユズが2年目を迎えました（4月16、17日）



講習会の風景

J A 津野山ユズ部会は、産地作りの活動が2年目を迎え、4月16日、17日に昨年度苗木を植え付けた部員を対象に剪定講習会を開催しました。

津野山地域での本格的なユズの栽培は初めてなので、剪定や今後の管理等について、基本的な内容から指導を行い、参加者の技術の習得に努めました。会では積極的な質問が多く出されるなど意欲的で、講習会終了後から積極的に剪定作業を進めていくことを確認しあいました。

今後振興センターでは関係機関と協力し、講習会の開催等を行い、部会全体の技術の向上支援を行っていきます。

津野山茶の振興について検討が始まりました（4月14日～）



役員会の風景

津野山地域営農連絡協議会では、近年の茶の単価低迷や栽培面積の減少等の問題が多い状況の中、技術PT会で津野山茶の振興について検討を行っています。

振興についてはJ A 津野山茶生産組合を中心に行う事とし、部員の現状・意向把握のためアンケート調査の実施を役員会に提案しました。会では産地の活性化に繋げるための方法の一つとして検討され、取り組みが承認されました。

今後、地区座談会を中心に説明会を開催し、調査を始めます。得られた結果は集計・分析し地区座談会等で報告し、今後の振興について検討を行っていきます。

経営面談会で、我が家の経営を分析！



面談会の風景

制度資金借受農家のミヨウ、イチゴ栽培農家を対象に、税申告を終えたこの春の時期に、経営面談会を順次開催しています。現在までに24名と面談。（むりやその他の品目の農家については6月までに実施予定）

資金償還しながら尚かつ健全な経営を行うために、農家、栽培担当、経営担当の三者で、決算データを過去のデータと見比べ、改めて栽培状況の確認をしました。

売上げが上がった要因は？この経費急増はなぜ？収量落ち込みの理由は？困っている問題は？などなど。品目によっては、他者の経費データとの比較も行いました。

そして、今作（次作）で課題にしなければならないことを話し合い、課題の共有を行いました。

2 今後の普及活動の動き

須崎農業振興センター農業改良普及課
(連絡先：０８８９－４２－３２５５)

時 期	タイトル	内 容	備考
４月２１日～	J A 土佐くろしおミョウガ部会目慣らし会	出荷規格、荷造り、検査受け入れ等について	
４月２２日	J A 津野山ニラ研究会	栽培技術について	
４月２３日	J A 津野山ハナニラ研究会	栽培技術について モデル農家の取り組みについて 新しい出荷資材等について 販促活動について	
４月２３日 ２７日	J A 津野山ユズ部会 現地研修会	本年春に植え付けした苗木の管理について	
４月２４日	J A 土佐くろしお経営 不振対策全体会	経営改善支援チームの再編成に向けての候補者のリストアップ、ランクづけ等について協議	
５月２４日	芳生野百国営農生産組合 総会	こうち型集落営農の生産組合の設立 総会 営農計画、規約等について	